

やまゆり

学校だより

令和6年1月15日
74号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育重点目標 「健やかな身体の育成」

恵子さんは、ペンを握っていた

阪神淡路大震災から1月17日で29年

1995年(平成7年1月24日)讀賣新聞記事

受験勉強のボールペンを握り締めたまま、阪神淡路大震災で倒壊した家屋の下敷きとなつて息絶えた女子中学生がいた。神戸市灘区大石町二、市立烏帽子中三年の「津端恵子さん」(15)「明日五時に起こしてね」。前夜に約束した時間通り、母の声で目覚めた娘はピンクのトレーナー姿でコタツに足を入れて勉強を始めた。

午前5時46分、不気味な地鳴りと大きな揺れが来た・・・。

会社員の父、一海さん(40)、母の一枝さん(37)の長女で、妹の市立西郷小五年壺果里さん(11)との四大家族。自宅は、文化住宅の一階北端。勉強部屋として、一軒おいた隣に姉妹はいた。【※年齢は当時の年齢】

ガレキと化した住宅に押しつぶされて父は「大丈夫か」と声をかけた。母は、もう駄目だと思って「子どもたちをよろしく頼みます」と弱々しく答えた。闇の中から妹の声が届いた。「冷たいよお」。たった一人、恵子さんの声だけが聞こえなかった。

3人は数時間後、近所の人たちに助け出された。恵子さんの遺体が運びだされたときは、午後2時を過ぎていた。父が抱きかかえると、体はまだ温かかった。ボールペンを持った指だけが冷たかった。レスキュー隊員がペンをはずしても指先はペンを握ろうとしているかのようだった。

6年生の頃、ぜんそくに苦しめられた娘だった。ママさんバレーの選手だった母親の勧めで中学に入ってからバレーボール部に入部した。2年の夏からキャプテンになり、三年の夏には区の大大会で優勝もした。体も丈夫になった。中学一年の頃からはボーイフレンドもできた。学校での出

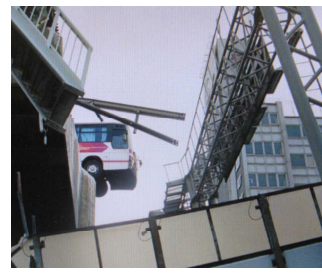
来事や悩みなど何でも家族に話す明るい少女。

「高校に行ってもバレーがしたい」昨年12月ごろには、バレーボールが強い私立須磨ノ浦女子高を進学先に決め、週に3日は早朝に起きて2月15日の入試に向けて勉強した。

15日には、翌日に誕生日を控えた父が「たまには息ぬきせんとあかん」と誘い、母も一緒に近くのカラオケボックスへ行った。「お父ちゃん、詰まったら助けてな」。藤谷美和子の「愛が生まれた日」を楽しそうに歌った。

あの17日。母は、パジャマのまま、午前5時に起こしにいった。「恵子時間やで」ふとんの上から揺り起こし、起きたのを確かめてから、自分達の部屋に戻った。服を着替えている最中に嫌な揺れが来て、倒れた。気づいたときには家の下敷きになっていた。火葬は、22日に終わり、家族は今、近くの熱帯魚店の3階を借りて避難生活を送っている。遺骨の前には、「これが一番喜ぶやろ」とボーイフレンドと一緒に撮った写真を飾った。

一海さんは言う。「恵子は15年生きて、生きて、生き抜いてきた。勉強も運動も、何をするにも一生懸命やったし、恋もしていた。残った三人であの子の分まで生きようと思います。」



阪神淡路大震災 29年前の1月17日。午前5時46分の大地震。

高速道路が倒れビルが根本から折れた。

死者6434人(不明者3人)の夢も人生も一瞬で失われた。

しかし、亡くなった一人の15歳の受験生にも、無念の思いが無限にある。

人の命は重い。二度ともとは戻らない。

恵子さんのことは詳しくは知らない。

しかし、29年前始めて新聞記事を読んでから、恵子さん。あなたの事は忘れない。

東京大学教授 片田敏孝教授

- 1 「想定にとられるな」相手は自然。人間の想定を超えることもあります。
- 2 「最善を尽くせ」「ここまで来れば大丈夫」ではなく、次々に最善の行動をとりましょう。
- 3 「率先避難者たれ」まず自分が率先して避難すると、他の人も避難します。

先輩方の受験体験を自分の学習に生かす

1 昨日の受験から「学んだこと」は何か

- 周囲の人との比較ではなく、入試は自分との戦いであり、自分は自分と考えて努力すること。
- 何事も諦めず努力し続けること。
- 知識だけでなく、そこから考える力が必要だと思った。社会科であれば、歴史と地理を合わせたような、基本的な知識をもとに考えを広げていくような力が必要だと思った。
- 「備え」の大切さ。準備とは、「言い訳や後悔」をしないためにするもの。
- 単語だけで無く、その背景なども勉強すべきこと。
- 他校の生徒に流されずに、試験の日も自分で判断して、主体的に行動する。
- 思った以上にうまくできた。自分のすごさを学んだ。努力して良かった。
- 入試問題は難しい！
- 「落ち着くのは大切だ」ということ。
- 車の故障で試験会場に行けなくなりそうだった。予想外のことは割と高い確率で起きること。
- とても緊張した。

前期入試の生徒

- 分からない問題でも、空欄にしないで取り組むこと。
- 人間性や諦めない心の大切さ。
- 特色適性検査の問題の時間配分を決めることがとても大切だということ。
- 分からない問題を捨てるのではなく、後回しにして「置いておく」という意識をもつこと。
- 自信をもつことの大切さ。

2 「試験問題について」どのような感想をもったか

- 社会は特に「知識」が必要だと思った。
- 難しい、不安、出来ない、どうしようなどの気持ちが湧いてきて、心が崩れそうな問題だった。
- 文章が長く、読ませる問題が多い。特に理科・数学は、読む気が無くなるくらいの文章量があった。また、応用問題が多く、様々な知識を組み合わせる必要がある。
- 勉強してきても、点を取りにくい問題も多い。何が出るか分からない。
- 知識を活用しないと解けない問題が多く、難しい。
- 基礎と応用問題の差が激しかった。
- 簡単な問題もあったが、難しい問題が多かった。
- 問題の意図が理解できなくて難しかった。
- 記述問題にも対応することが大切。
- 難しかった。しかし、解ける問題で確実に合格できる点数を取ることが大切。

前期試験の生徒

- 基礎問題が多かった。応用問題は少しだった。
- 想定外の問題に驚いた。なんとか対応したが、難しかった。
- 記述式の問題がとても多い。
- 知識だけで答えられる問題は少ない。応用しないと解けない問題が多い。
- 吉田高校の前期試験は内容が分からなかったため、難しく考えていた。しかし、思ったより易しかった。しかし、細かな知識は必要だと思った。

3 試験でうまくいったことは何か

- 今まで通りに受験することができた。

- 受験に間に合うように家庭学習ができて良かった。自分でやらないとできない。
- 一度他校の試験を受けていたので、テストの流れ、会場の雰囲気などが分かり落ち着いた。
- 時間配分がうまくできた。たまに時計を見て、見直しができるくらい時間に余裕があった。
- 出来る問題から順番を考え、上手く進めることができた。
- 解ける問題から解いた。
- 文法等の基礎をしっかりと解けた。特に英語のリスニング。
- 受験番号と名前をしっかりと記入した。
- 分からない問題はすぐに飛ばした。出来る問題を解いて、最後まで終わらせることができた。
- 毎回の休み時間はなるべく立ってリセットできた。座りっぱなしは、精神的にきつすぎます。
- 国語ができた。

前期試験の生徒

- 面接で自信が無い質問をされても、ハキハキ答えることができた。
- 面接での受け答えがしっかりできた。
- 前日に学習した内容がそのまま出たこと。
- 受験勉強のストレスをコントロールしながら学習できた。
- 緊張しないで面接も筆記試験も受けることができた。

4 試験当日や受験に対して、もう少し対応・準備しておけば良かったことは何か

- もっと早く、苦手な分野に取り組んでおけば良かった。
- 難しい問題に対して焦らず、落ち着くこと。強い心を持ち、深呼吸すること。
- 基本的な漢字や単語等を確認し、精神的に安定させておけば良かったと思った。鉛筆で記入したが、シャーペンを用意しておけば良かった。
- 様々な最悪を考え、もしものために備えること。
- 持参した時計が1時間目の途中で止まってしまった。予備の時計も必要。
- 今まで使ってきた、勉強しやすい資料やプリントを使うと安心する。
- 数学の応用と問題を解くスピードについて対策が必要だった。
- 5科目の学習にもっと力を入れれば良かった。
- 英語・国語・数学等の時間がかかる勉強をしっかりすべきだった。歴史の年代を覚えることもすべきだった。
- 「チャイム」に慣れておけば良かった。後悔している。※チャイムを鳴らすと小学校に影響が出てしまいます。対策を検討中です。

前期試験の生徒

- 特色適正検査で予想した問題が出なかった。予想外の問題も勉強する必要がある。
- 毎日学習する習慣をつくること。
- ストレスを軽減すること。
- 受験者が一人だけという孤立感があるので、もう少し心構えを持てば良かった。

5 1年生からの「調査書の教科の成績」についてはどう思っているか

- 1年生のときはもっと頑張れたと思うし、3年の成績はもっと伸ばすことができたと思う。
- 1・2年生の頃は内申の成績を軽いものだと思っていたが、3年生になってからとても重要であることに気づいた。
- 1年生の頃から、もっと受験のことを考えて、定期テストなどにも重点をおけば良かった。
- 単元末テストや期末テストがとても大切！
- 思い通りの成績をとれた。準備を大切にし、少しずつ成績が上がった。
- 1年生は良くなかったが、だんだん成績を向上させられた。
- 2年生のときに少し下がった。しかし、大体良かったと思う。
- 低すぎた。もっと真剣に考えて取り組むべきだった。
- 一度ある教科で納得のいかない成績を取ってしまったことがあった。全体的には良かったが、悔しい思いをもっている。
- どんなことがあっても、あきらめない気持ちが大切。これからも、頑張ってください。